

はじめに

看護師が最新の入退院支援や 社会資源について把握しておく、 患者の再入院予防や QOL(生活の質)向上につながる

わが国では、2025年以降も人口減少・少子高齢化が進むと予想されています。そのなかで、患者の状態などに合わせて質の高い医療を適切に受けられるよう、医療・福祉・介護サービス等の連携による、切れ目のない提供体制を構築することが重要とされています。

病院勤務(病棟・外来)のみならず、クリニックや施設勤務などで看護に従事する人も最新の入退院支援についての重要性、および社会資源の存在とその活用方法について理解を深めておくことは、患者に対する包括的かつ継続的なケアの提供に欠かせない要素となります。

医療機関への入退院は、患者の生活に大きな変化をもたらすできごとであり、その過程においては医学的な対応のみならず、社会的・心理的側面にも配慮した支援が求められます。入院前には、患者が安心して医療を受けられるよう、事前の情報提供や環境整備を行う必要があり、また退院後の療養生活の継続を支えるためには、地域の介護サービス、訪問看護、福祉制度などの社会資源を適切に活用することが重要です。

入退院支援は、多職種連携の中核をなす活動でもあります。看護師がその役割を認識し、他の職種と連携しながら患者支援にあたることで、より円滑で効果的な支援体制の構築を可能にします。

医療の現場では、患者が抱える課題は健康状態だけにとどまらず、経済的困窮、家庭環境、精神的苦悩などが複雑に絡み合っている場合が少なくありません。そうした課題に対して、医療だけでは十分な支援ができない場合、高齢者や障害者、子どもなどすべての人々が支え合えるよう、地域包括支援センターをはじめ、介護・障害福祉サービス、制度外の非営利団体(NPO)といった各種社会資源との連携が不可欠となります。

看護師がこうした資源を把握していることにより、患者の個別的なニーズに適した支援の必要性や選択肢を提示できるだけでなく、他職種との協働も円滑に進めることができます。特に入退院支援や在宅療養への移行に際しては、適切な社会資源の活用が患者の再入院予防やQOL(生活の質)を向上させる重要な要素となります。また、制度に対する認知不足により支援を受けられていない患者やその家族に対して、看護師が情報提供を行うことは、社会的権利の保障にも貢献することにつながります。

したがって、看護師は専門的な医療知識に加えて、入退院支援の意義を理解し、社会資源に関する知識と活用能力を有することで、より質の高い看護を提供することができます。

2025年 9月
宮本千恵美